

平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 東京医科歯科大学

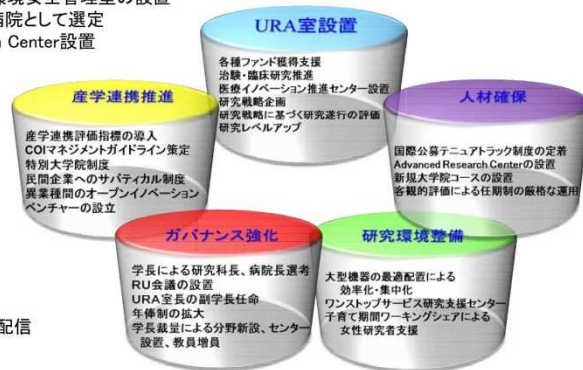
目的

本学は、医療系総合大学として、「知の癒しの匠を創造する」を基本理念とし5C (Contribute, Compete, Center, Collaborate, Cultivate)の推進を図る。すなわち、本事業においては、1)人類の健康と福祉に貢献するため、切磋琢磨し国際的に先端の基礎研究・臨床研究を展開するための研究拠点を形成し、生命科学や疾患に関する新しい知の創造を行う。2)患者のQOL向上のため、得られた知を産学連携活動を通して、新しい医療技術や治療法の開発など実用化を推進する。3)これらの活動を通して、若手研究者、女性研究者の育成を行う。これらの事業を推進することを目的としている。

これまでの実績・進捗状況

【実績】

- ・組織面：リサーチ・ユニバーシティ(RU)推進機構の設置及びURA室の体制整備、環境安全管理室の設置
医療イノベーション推進センター設置に伴う国家戦略特区における中核病院として選定
若手・女性・外国人研究者の雇用・活躍の場としてのAdvanced Research Center設置
各種研究センターの研究・産学連携推進機構への直轄管理運営
- ・人事面：年俸制導入・拡大、研究特別手当制度の制定・運用
クロス・アポイントメント制度の制定・運用
連携研究員制度及びプロジェクト助教・講師制度の整備
- ・活動面：医師主導型治験の開始、臨床研究の増加
URA支援による科研費申請指導に伴う若手教員の採択率の増加
若手研究者奨励賞の開始、大学発大型ベンチャーの設立
ジョイントリサーチ講座・部門の整備、知的財産収入の倍増
女性研究者支援によるダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ採択
研究不正防止ハンドブック(日本語・英語)作成及び配布
RU国際フォーラムの開催、外部委員による事業評価会の実施



【進捗状況】

- ・広報面：海外向け広報活動の一環としてTMDU Research Activitiesの発刊と電子配信
- ・情報面：IRの統合的活用促進及びその活用による大学改革
- ・組織面：医学系URA協議会の設立準備

今後の課題と展望

これまでの実績を踏まえ、URAのレベルアップのためのスキームを構築するとともに、医療系総合大学特有の臨床研究のさらなる発展、及び安心して研究ができるための研究環境整備(ハード面としてのワンストップサービス型ファミリーサポートセンターの設置及びソフト面としての研究不正防止、生命倫理、利益相反、各種指針などの制定・普及)の支援を強化する。また、大学ランキング向上のため、国際共同研究の促進、研究広報体制及び海外向け広報活動の強化を図る。さらに、IR機能を充実させ、全学のガバナンス強化を推進する。

フォローアップ結果

評点区分：順調に進んでいる

全体を通した所見

- 医療系総合大学として、「知の癒しの匠を創造する」という基本理念の実現に向け、組織・人事・活動の全ての面において新しい試みを取り入れており、今後の展開に大きな期待がもてる。
- 採択時に高い評価を得た人事労務制度改革、URA組織に関する自己点検・評価に基づくPDCAサイクル、各種学内研究センターの整備等は当初の計画に沿って順調に進んでいることが確認された。

特に優れた点

- 全学におけるURA室の位置付けが高く、URAの人物プロフィール、評価、キャリアパスが見える化されている。
- 医療イノベーション推進センターの新設による基礎研究から製品化や社会実装までの一貫通貫型の支援、多様な研究者が研究に専念できる場としてのAdvanced Research Centerの新設、IRセンターにおけるIR手法の研究戦略への応用、プロジェクト助教・講師制度の整備などは優れた取組であり、今後の発展とその成果に期待したい。

期待する点

- 本務教員に占める外国人教員が十分とはいえず、海外トップクラスの研究者との連携や協働への取組、国内外の認知度アップのための広報機能の更なる充実を進めて、世界でトップクラスの医療系総合大学に相応しい国際化の進展に期待したい。
- URAの着実な配置が進められていることから、その結果として論文数や外部資金獲得金額、共同研究などに数値的な増加が見られるように一層の取組を期待したい。